

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年7月28日～2014年8月3日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年8月6日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【南オセチア】

▼第47回IPRM会合(30日)

・水の供給など行政境界線付近に暮らす住民の日常生活に関わる諸問題について協議。拘束者や行方不明者の問題についても情報を交換した。次回のIPRM会合は9月中旬の予定。

2. 外 政

▼バンジキゼ外相が第45回太平洋諸島フォーラムに参加(29日-30日)

・パラオ共和国で行なわれた第45回太平洋諸島フォーラムにバンジキゼ外相が参加。29日にはメイソン豪外務政務次官と会談。二国間・多国間協力に係る幅広い問題および地域的な安全保障上の課題に焦点が当てられた。

・同29日、「パ」外相とパラオ共和国国務大臣、バヌアツおよびツバルの外務大臣との会談が行なわれた。いずれの大臣も国際的に承認された範囲内でのグルジアの主権・領土一体性の尊重を再確認した。

▼ロシアによるグルジアとの自由貿易協定の停止に向けた動き(30日)

・30日、露政府が1994年に結ばれたグルジアとの二国間の自由貿易協定を停止する政令の採択の手続きを進めていることが報じられた。

・31日、アバシゼ対露関係首相特別代表はTVインタビューで、「予期されていた動きであり、私はこれが悲劇だとは思わない」「関税が上げられたり見直されたりすることで、ロシア市場でグルジア産品の一部はおそらくより高価になるだろう。我々はそれに適応しなければならぬ。欧州の経済圏の一部となることを望むなら、このような事態に対し備えが必要である」とコメント。

▼アバシゼ対露関係首相特別代表とカラーシン露外務次官の電話会談(8月1日)

・1994年に結ばれたグルジア・露間の自由貿易協定に対するグルジア・EUのDCFTAの影響について議論し、実務的な接触を継続することで同意。両国間の定期航空便および学術交流の再開について協議。

3. 内 政

▼検察がサーカシヴィリ前大統領を起訴(28日)

・28日、検察はサーカシヴィリ前大統領に対する起訴を発表。起訴は、2007年11月7日の反政府抗議デモの強制解散、TV局「イメディ」の襲撃および故バドリ・パタル

カツィシヴィリ氏の所有していたその他の財産の「接収」に係る公権力の濫用に関するもの。検察は、2007年当時のメラビシヴィリ内務大臣、アデイシヴィリ検事総長、ケゼラシヴィリ国防大臣、ウグラヴァ・トビリシ市長に対しても同じ件での起訴を決定したと発表した。

・同28日、「サ」前大統領はフェイスブック上で、自身に対する与党連合「グルジアの夢」の政治的「復讐」により、西側の同盟国との関係が損なわれるとして、ロシアを喜ばせるために行なわれる「茶番劇に私はもちろん参加しない」と述べた。

・29日、サキ米国務省報道官は、「米国はサーカシヴィリ前グルジア大統領に対する起訴について懸念している」「司法システムが政治的報復の道具として用いられてはならない」との声明を発表。

・31日にはアシュトン EU 外務・安全保障政策上級代表の報道官が「サーカシヴィリ前大統領に対する起訴を懸念をもって注視している」「我々は、グルジアの政治の全ての勢力に対し、過去の争いを克服し、国の未来に焦点を当てるよう求める。グルジアは大きな危機に直面しており、二極化の枠を打ち破ることのできる前向きなリーダーシップが求められている」との声明を発表。

・2日、トビリシ市裁判所は、「サ」前大統領、「ア」元検事総長、「ケ」元国防大臣の審理前勾留に関する検察の要請を認めた。

・予備審問は9月22日に開かれる予定。

▼フルチャでのバス爆破事件の判決(30日)

・トビリシ市裁判所は、2008年5月の議会選挙の投票日にアブハジア行政境界線付近のフルチャ村でバス2台が爆破された事件について、起訴されていた当時のシャマタヴァ内務省アブハジア自治共和国憲法保安局長とムルグリア内務省サメグレロ地区特務隊員のテロ容疑を無罪としつつ、権力濫用があったとして、4年6か月の禁固刑を言い渡した。

▼シグア観光局長の罷免(31日)

・経済・持続的発展省は、8月4日付けでシグア観光局長を罷免すると発表。8月末にアナクリアにて開催される予定の「カザンティプ・フェスティバル」をめぐる、シグア局長に不適切な発言があったとされる。

▼国会が最高裁判官候補2名を不支持(8月1日)

・国会は、マルグヴェラシヴィリ大統領が推薦した最高裁判所の裁判官の候補者2名を否決。76名の支持が必要であったが、支持はともに30名に達しなかった。

・「マ」大統領は、2名の候補者が7月23日の国会人権委員会の審議では支持されていたにもかかわらず、国会が

支持しなかったことは「理解できない」として、与党連合内の調整不足を批判した。

▼国家安全保障会議(8月1日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、9月にウェールズで行なわれる NATO 首脳会議に対する用意を話し合うため、国家安全保障会議を招集。「マ」大統領が2013年11月に就任して以来初めての会議。ウスパシヴィリ国会議長や各大臣が出席したが、ガリバシヴィリ首相は欠席した。

4. 経 済

▼IMFに対する国立銀行の負債の返済計画(30日)

・カダギゼ国立銀行総裁は国会での答弁で、国立銀行は2013年にIMFに対し380百万ドルの負債を返済したが、残りの負債を2014年中に全て返済すると述べた。6月末時点でのIMFへの国立銀行の負債は64.5百万ドル。国立銀行は20年ぶりにIMFに対する負債がなくなる予定。

▼2014年6月のGDP成長率(31日)

・国家統計局が速報値を発表。2014年6月のGDP成長率は前年同月比6.4%。2014年第2四半期のGDP成長率は前年同期比5.1%(第1四半期7.1%)。2014年上半期のGDP成長率は前年同期比6.0%。

▼アゼルバイジャンへ入国する車両の規制(8月1日)

・8月1日より、アゼルバイジャンはEuro-4基準を満たさない車両のグルジアからの入国を禁止。しかし、直後に、新しい規則の国民への周知のために、2週間の猶予期間を設けることが発表された。

▼IMFが1億5400万ユーロの融資プログラムを決定(8月1日)

・IMFがグルジアに対し、経済的脆弱性を強化するため、3年間で154百万ユーロを融資することを決定。IMFは既に2012年から2013年にかけて386百万ユーロを融資している。

4. その他

▼全国的な停電が発生(27日)

・27日22時23分、複数の送電線で発生した障害により、アチャラ自治共和国とサメグレロ地方の一部を除くほぼ全国で停電が発生した。アルメニアおよびトルコからの電力の緊急輸入により、およそ2時間後に多くの地域で電力の供給が再開された。

▼グルジアとアゼルバイジャンのサッカーチームの試合後の騒動(31日)

・7月31日にバクーで行なわれたグルジア、サチヘレのサッカーチーム「Chikhura」とバクーの「Neftçi PFK」との試合後、会場内外で両国のファンの間で乱闘騒ぎが発生。グルジアの記者らは警察に連行された。グルジアのファンが、アゼルバイジャン領の一部を含むグルジアの地図を描いた旗を掲げていたことが発端とされる。

・1日、ガリバシヴィリ首相は両国の良好な隣国関係を損なおうとする挑発があったと非難。

・1日夕、マルグヴェラシヴィリ大統領とアリエフ・アゼルバイジャン大統領は、電話会談で「このような事件は両国の友好的な関係に影響を与えない」と話した。